ふみびと

第３８３号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

一年の灯り 日々をたどって

夜を照らす場所

深夜まで仕事をしていた頃。家に帰って食事の支度をする体力も気力も無くなっていた時にお世話になっていたのが近くのコンビニ。

車の通りも少なくなって静寂に包まれる真っ暗な街並みの中で、いつも変わらず眩しいくらいの明かりで佇むそこは、なぜかホッと一息つける場所だったような気がします。

ほとんどの人が眠りについているその時間に、いつも当たり前のように店を開けて働いている人たちのおかげで、温かいご飯とほんのひと時の安らぎをいただけていたことを後になって気付きました。

「お疲れさま、今日も遅かったね」

自分よりももっと遅い時間まで働いているのに、そう労ってくれていたお店の馴染みのスタッフの方。自分が休んでいる時間に働いている人たちに支えられている、そんな当たり前で普通のことだけど、とても大事なことも。

自分でご飯を作ろうと思ったら大変な時間帯に簡単に手に入れることができて、そのうえ自分では作れないようなものを食べることができる。さらには時に自分で作るよりも安く済むことも。

「お客」の立場であれば普通のことだけど、改めて考えるとお金を払っているとはいえ、それだけのことをしてもらえるということは有り難いこと。

自分でも意識していないところで、知らず知らずのうちに誰かに支えられている。何気なく生活しているとつい忘れてしまうことだけど、そんな支えのおかげで不自由なく暮らせていることを時々でも思い出しながら日々を送りたいものです。帰り道で迎えてくれるコンビニの明かり。例えばそんなホッとするひと時を感じられた時にでも。

振り返り

12月の空気には、不思議な重みがある。冷たさだけでなく、一年という時間の積み重ねが、そこに静かに宿っている気がする。朝の空気感、手袋の感触、吐く息の白さ。どれもが年の瀬を知らせてくれる。そんなこの時期、新しい手帳の購入準備をする一方で、今年の書きかけの手帳を見返すことがある。できたこと、できなかったこと。何気なく書いた言葉が、思いがけずその日のことを思い出させる。それを静かに読み返す時間は、自分を労う小さな儀式のようでもある。年末には「来年こそ」と新しい決意を胸に抱くのだろうけど、その前に、過ぎた日々にきちんと目を向けておきたい。良い日も、悔しい日も、それらすべてが今の自分を作ってきた。そして、こんなふうに一年をゆっくり振り返ることで、新しい年を迎える心もまた準備されていく。そう思える12月が、私は好きだ。

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局宛の返信用封筒に同封下さい。今までにない交流の始まりです。

次回発送日

次回発送日は12月22日の予定です。送りたいお手紙がある場合は19日までに事務局に到着することをお近くの郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。これは発送に間に合わせる一つの目安ですので、ご自身のペースを大切にしてください。

感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて下さい。方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報を伏せた上でご紹介させて頂きます。